molten®

NUEVA
THIRTY TWO
PAT. PENDING
IHF
OFFICIAL
BALL
molten
Size 3

審判員に狩人のような眼力を望む

㈶日本ハンドボール協会 常務理事 **斎藤　実**（審判部長）

IHF/PRC のスタインバッハ委員長は、最近のハンドボールはラフプレーが非常に多いことを憂いていると言っておりました。このことは試合の中で何かの形で現れてくるのではないかと思っておりましたが、それはアテネオリンピックで現れてきました。

イエローカード３枚に達する前に一発退場を適用したことです。勿論競技規則 16：3「注」に特別な違反に対しては、プレーヤーが前もって警告となっていなくても、あるいはチームの警告がまだ合計３回になっていなくても、レフェリーはそのプレーヤーをすぐに退場とする権限を有している、とありますので、全く新しいケースではありません。しかし、IHF の指導は基準を示すために早い段階で３つの警告を出しなさいということでした。ところが、各国のトレーナー達は３つの警告までは退場がない。だからきつい反則で臨めという作戦もあったようです。こうした傾向を遮断する意味もあって、一発退場を適用してきたのではないかと思われます。

もう一つは、サイドディフェンスがサイドシューターを極力サイドに追うが、最後は接触を避けていることです。ここでの接触は、攻撃側のチャージング・防御側のプッシング・何も無しに分かれます。ディフェンダーがシューターの足を掬ってバランスを崩させたり、シューター自らがディフェンダーに接触して無理にバランスを崩し反則されたように見せかけたり、あるいは、遅れて位置取りをしたにもかかわらず、胸で受けたから相手のチャージだとルールを誤解して主張する等、国内でも非常に多いプレーですが、この辺を整理し始めたのではないかと思われます。

こうした書き方をしました背景には、アテネオリンピックに参加された渡邊会長が、IHF/PRC がアテネオリンピックにノミネートした審判員に配布した DVD を入手してくださり、いま競技規則研究委員会と視聴覚委員会で分析をしているということがあります。DVD のアウトラインは、試合に現れる反則を取り上げ、これは退場とすべし、これは警告でよしといった具合に 60 分にわたって解説してあるようです。従いまして、アテネオリンピックはこの DVD に示された基準を適用したと考えられます。この DVD につきましては日本版に直して関係者に資料として年内にはお渡しできると思います。

国内における全国大会審判の様子を幾つか見させていただきましたが、幾つか疑問を待たざるを得ない判定に出会いました。世界の傾向を知ることもさることながら、我々審判員は技術か反則かを「狩人のような鋭い眼力」で見抜き、そこに判事や弁護士のような配慮を加え、ハンドボールの魅力を堪能させる素晴しいゲーム運営を心掛けることと、ハンドボーラーに正しいルールを教える努力を惜しまないよう期待致します。

※ IHF（International Handball Federation）：国際ハンドボール連盟
　PRC（Playing Rules and Referees Commission）：競技規則審判委員会

平成16年度全国高等学校総合体育大会

高松宮記念杯第55回全日本高等

好感の持てる大会 ―総括と報告―

㈶全国高体連ハンドボール専門部部長　宇佐美　幸彦

はじめに

「君の輝く一瞬が今伝説となる」という大会スローガンのもと、山口県での３回目の中国04総体が、日本のハンドボールのメッカ山口県周南市、光市中心に開催されました。開会式においても過去にない、レーザー光線による演出効果満点の心に残る大会となりました。大会を総括して報告するにあたり、周南市、光市実行委員会の皆様と山口県ハンドボール協会、高体連ハンドボール専門部の先生方、今大会を開催するにあたり御尽力いただいた関係者に深く感謝申し上げます。また、地元高校生補助役員のきびきびとした行動と爽やかな挨拶で出迎えられ、参加した選手達は最高の状態でプレーできたことと感じております。

さて、開会式で私が皆様にお願いしたハンドボール競技は「走って、走って、走りまくって、この暑さを吹き飛ばし、爽やかな風を観客の皆様に与えて下さい」と約束した内容にふさわしく毎試合､好ゲームが展開されました。このことで、会場に詰めかけた多くの観客を魅了することが出来たのではないかと思っております。

実力拮抗の男子

男子の部は、春の選抜大会優勝の沖縄興南高校が予選で敗退し、第一シード校が出場できない大会となりました。このため、どこが優勝するか混沌とした大会でもありました。その中で、前日までの２試合連続一点差で勝ち上がった伊奈高校と、準決勝戦で地元下松工業高校に九死に一生を得た瓊浦高校の決勝戦となりました。対戦は決勝戦にふさわしく、一進一退の好ゲームとなりました。最後には体格差とロングヒッターを揃えた伊奈高校が４年ぶり３回目の優勝を決めました。男子は、ベスト８以上はどのチームが優勝してもおかしくなく、全てのゲームが一点差のない様であり、肝心な場面でミスが生じたチームが敗退する場面を多く目の当たりにしました。

女王復活の兆し

一方女子の部は、春の選抜大会優勝の第一シード校、小松市立高校が春夏連覇をかけ、危なげなく順当に勝ち上がりました｡決勝は選抜３位の桜花学園高校との対戦となりました。戦前の予想では、元気があり、ハンドボールを楽しんでいた桜花学園が優位かと思われましたが、小松市立は桜花学園の肝心な場面でのシュートミスにより助けられました。昨年のインターハイにおいて苦い経験をした小松市立は、その経験を生かし窮地に追いつめられても動ぜず、強い精神力と執念で18年ぶり８回目の優勝を決めました。女王復活の兆しが見えてきた大会でもありました。

その他のゲームと大会の盛り上がり

惜しくも２回戦、３回戦で姿を消したチームの中にも今秋の国体で期待される浦和学院、愛知高校、法政二高、氷見高校等も好感の持てるチームでありました。決勝戦にも匹敵するゲーム内容の香川中央と小林工業白熱したゲームと、今大会を盛り上げた地元、下松工業高校の第３位入賞の活躍ぶりも脳裏から離れません。大会６日間を通して連日ハイレベルなゲームが展開され好感の持てる大会となりましたことに感謝したいと思います。

今年はアテネオリンピック開催の年でありながら、日本は出場できず残念であります。今大会に出場した選手が次回北京大会で活躍できる選手に成長していくことを期待しております。全国高体連ハンドボール専門部としましても、将来の日本のハンドボール界を背負っていける選手の育成と発掘に精進、努力していく所存であります。今後共よろしくお願い申し上げまして、大会報告とさせていただきます。

学校ハンドボール選手権大会

地元大会関係者の声

大会回顧 ―周南市・光市からのメッセージ―

山口県高等学校体育連盟ハンドボール専門部委員長 **吉本 明人**（山口県立山口中央高等学校）

「中国 04 総体」という大会愛称で開催された全国高等学校総合体育大会・高松宮記念杯第 55 回全日本高等学校ハンドボール選手権大会を山口県周南市・光市で開催できたことを大変光栄に思っています。愛称の通り、島根県を主開催県とし、中国ブロック５県で分散開催をしており、山口県ではハンドボール競技をはじめ３種目を開催することとなりました。ハンドボール競技を本県で開催するのは今回で３回目になります。前回（昭和 61 年）も周南市（旧徳山市）で開催しており、競技人口、関係者も県内では最も多く、関心の高い地域での開催となりました。

開催まで

６年前に旧徳山市と下松市での共同開催が決定したのですが、会場施設の関係で２年半前に急遽開催地の変更を余儀なくされ、旧徳山市、熊毛町、光市での開催ということになりました。その後市町村合併で平成 15 年４月に２市２町が合併し旧徳山市が周南市となり、開催地実行委員会を立ち上げたのは１年前という状態の中、競技会場・練習会場の決定、役員、補助員の養成事業、予算決定、式典関係の決定、看板・歓迎のぼり旗の設置計画、特に配宿計画等々めまぐるしい毎日が続き、やっと全国からの選手監督を迎えることができました。しかし開会式前日には台風 10 号が周南市直撃のコースを進んでおり、準備もままならず、やきもきしながら８月１日（日）の開会式を迎えることとなりました。

開会式、そして試合がスタート

開会式は「光と音のイリュージョン」をテーマに観客約 5000 人が見守る中、スポットライトを浴びながら昨年度優勝チームを先頭に選手団 1340 名の入場行進から始まり、㈶日本ハンドボール協会副会長山下泉氏による挨拶、㈶全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部部長宇佐美幸彦氏の挨拶、地元高校生代表伊藤宏樹君による歓迎の言葉等で選手団を迎えることができました。式は最初から最後まで音と光で演出され、心に残る開会式ができたのではと思っています。

８月２日（月）より周南市総合スポーツセンター３コート、周南市熊毛体育センター、光市総合体育館、徳山高校体育館の４会場６コートで競技が開始されました。大会スローガンである「君の輝く一瞬が今伝説となる」の通りプレーしている一瞬一瞬が伝説となるような白熱した好プレーが展開され、数多くの試合が１点を争う好ゲームとなりました。男子は優勝：県立伊奈高等学校（茨城県）、準優勝：瓊浦高等学校（長崎県）、第３位は県立氷見高等学校（富山県）、県立下松工業高等学校（山口県）。女子は優勝：小松市立高等学校（石川県）、準優勝：桜花学園高等学校（愛知県）、第３位は昭和学院高等学校（千葉県）、熊本国府高等学校（熊本県）という結果で幕を下ろしました。また地元代表下松工業高等学校がベスト４まで進み、大勢の観客が入り、大いに盛り上がった大会だったと喜んでいます。

成功はみんなで作り上げたもの

しかし大会開催直前までは分散開催ということでなかなか気運も盛り上がらず、また事業予算の縮小を余儀なくされた背景の中、先催県並の大会を実施する為にいろいろと工夫をしてまいりました。大会役員、補助員をできるかぎり削減し、１人何役も重複してやって頂く、運営スタッフをスリムにする、練習会場は公式練習を除きグラウンドにする等々。ただ大会が近づくにしたがい、一般ボランティアの方々の協力、市役所職員、地元教職員、生徒の皆様に大いに大会を盛り上げていただきました。大会が始まると各係とも少ない人数で休憩もままならない状態で役割をこなし、参加されたチームが試合に集中できるよう心がけました。その結果、競技に関しまして、大きな事故もなく無事に全日程を終了することができました。これもひとえに県内役員・補助員、周南市・光市職員の皆様のご協力があったからと感謝しております。

大会を終了するにあたり、全国より大会役員としてご協力頂きました㈶日本ハンドボール協会、㈶全国高等学校体育連盟ハンドボール専門部、各地よりお集まり頂きました審判団の皆様へ心よりお礼を申し上げます。

女子優勝チームの声

「春夏連覇」

小松市立高等学校ハンドボール部監督　古橋　幹夫

今年３月の選抜大会優勝後、「今年こそ春夏連覇を」という声がかけられた。選手も私も目指すのはそれしかないことを自覚していたが、昨年インターハイの決勝での大敗が頭をよぎる。昨年のチームは得点力に頼り、ディフェンスに頑張れない部分が大きな反省点であった。今年のチームは体を張った守りができるチームであったので「今年こそは」という思いがあった。やはり高校生にとってインターハイがメインの大会であり、チームの真価が問われる大会であると思う。しかし、抽選の結果を見た時にはいつ負けても仕方ないという思いがした。暁、白梅学園、宣真、昭和学院、桜花学園と戦った訳だが他にも数々の強豪が近い山にいた。もう１戦１戦を全力で戦うしかないという覚悟ができた。

大会では予想通り苦しい試合の連続であった。昨年のように前半で勝負が決まるゲームがなく、レギュラーを休ませられない。そんな中で選手達は後半のきつい場面でよく走り、集中的に点を取った。

優勝が決まった瞬間は「よくやった」それしか考えられなかった。時間が経つにつれ苦しかった１戦１戦が思い出された。白梅学園の手渡しパスに翻弄されたこと。宣真戦で石立が前半で２度の退場を貰ったこと。決勝の桜花戦では後半立ち上がりに５連取で一気に追いつかれたことなど綱渡り的な試合ばかりで「運良く優勝ができたんだ」としみじみ思った。とは言え、選手達の冷静さと頑張りには本当に脱帽だ。マンツー、ダブルマンツー、３－２－１、５－１などよく冷静に対応できたものだと感心する。こんなすばらしい選手達とハンドボールができ、優勝までできたという二重の喜びをひしひしと感じている今日この頃です。たくさんの方々からの励まし、応援、支援にも心から感謝しています。

最後になりましたが、私達の想い出に残る大会の運営に携われた多くの方々、審判員の皆様本当にありがとうございました。

写真提供：スポーツイベント社

男子優勝チームの声

支えて下さった方々への感謝を込めて

茨城県立伊奈高等学校３年　染谷　雄輝

この度、山口県で行われました全国高等学校総合体育大会で４年ぶり３回目の優勝をすることが出来ました。

日本一になれたのも、数多くの先生方のご協力と支えがあったからです。心から感謝しております。また、私達に指導して下さった各中学校の先生達にも感謝の気持ちで一杯です。本当に有難うございました。

この３年間、先輩達が成し遂げられなかった全国制覇に向けて日々練習してきた成果を試合に出すことが出来、優勝することが出来ました。努力が優勝という形に結びついたことをとても嬉しく感じます。

春に神奈川で行われた全国高等学校選抜大会では、沖縄県代表の興南高校に大差で負けてしまい悔しい思いをしました。その試合では一昨年、藤代紫水高校に転出された滝川先生の教え「ディフェンスから速攻」をすることが出来ませんでした。その悔しさをバネにインターハイまでの４ヶ月間、藤代紫水高校の選手と滝川先生に胸を借り練習に励んできました。

第一試合は順調に勝ち進み、迎えた第二試合ではトラブルもありましたがメンバーが欠けても、いるメンバーでやるしかないと心を一つにすることが出来ました。その結果、逃げ切ることができて次の試合に進むことが出来ました。

第三試合、相手は選抜準優勝の香川中央高校でした。先生からは、この山を乗り越えれば優勝は見えてくると言われ、いっそう力の入った試合となりました。とにかく言われたこ

とを徹底的にやり、60分間粘り、終わってみれば24－22と激戦の末、準決勝に駒を進めることが出来ました。この勝利は私達に自信を与えてくれ、氷見戦では32－29大差ではないものの決勝へと辿り着くことができました。

写真提供：スポーツイベント社

決勝の相手、瓊浦高校は昨年のインターハイで、ラスト90秒、3点差をひっくり返して逆転勝ちしたチームです。相手の意気込みも並大抵ではないはず、「昨年のリベンジ」との声が相手ベンチから聞こえてきます。しかしながら、自分たちもここまで来たからには負けられない。決勝戦はお互い譲らず、激しい試合となりました。そのような戦いの中、今までの練習の成果を出し切ることだけを心掛け、結果として日本一という頂点に立つことが出来ました。

今こうして私達がいられるのは、両親、先生、地域の方々などたくさんの人の支えがあったからだと感謝しています。この結果に満足することなく国体二連覇を目指し、努力していきます。今後とも、今まで通りのご指導よろしくお願い致します。

PHOTO GALLERY

抽選会風景

受付にて

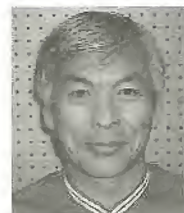
コートの安全を守ります

会場風景

駐車場整理も大切な仕事

オフィシャルは正確さが命

豊田高専が初の大会３連覇を達成



（社）全国高等専門学校体育協会ハンドボール競技専門部
委員長　古屋　正俊（東京工業高等専門学校）

熱戦を振り返って

今大会は、ハンドボールのメッカとして数多くの輝かしい歴史を生み出し、新装成った愛知県体育館を会場に、愛知県協会並びに豊田高専の主管で、８月７日、８日に実施されました。記録的な酷暑の中での大会でしたが、館内は冷房完備で、暑さ対策の必要もなく、各試合とも最高のゲーム環境の中で熱戦が展開されました。

大会は予選リーグ、決勝トーナメント方式で行い、激戦を制し決勝進出を果たしたのは豊田高専と大阪府立高専。豊田高専は通算６度目の優勝と、大会史上初の３連覇を目指し、対する大阪府立高専は13年振り４度目の優勝を懸けての対戦。共に高専ハンドボールの伝統校同士の決勝対決は、序盤より実力伯仲で、随所で両キーパーのスーパーセーブが館内を沸かせ、１点を争う大変盛り上がりのある好ゲームとなりました。

延長戦まで突入し、大接戦の決勝戦を制したのは地元・豊田高専。念願の大会史上初の３連覇を達成し、併せて、国内有数のハンドボール王国である愛知県協会の全国優勝通算150勝を記念する勝利となりました。準優勝となった大阪府立高専も、スピードがありバランスの取れた安定したチーム力を誇り、個性豊かな明るいチームカラーは、豊田高専とともに高専ハンドの目指すべき一つの目標・水準を示したといえます。

今大会の優秀選手には、豊田高専から犬塚恵介（CP・５年）、江口光洋（GK・５年）、原田誠（CP・５年）、大阪府立高専から吉村優（CP・５年）、三田貴（CP・５年）、高知高専から石元伸明（CP・５年）、八代高専から飯田雄也（CP・５年）、以上の７名が選出されました。

※大会の結果はスコアールーム③（p.22）に掲載いたします。

高専ハンドボールの今後

国立高専の法人化に伴い、ハンドボールを含む（社）高専体育協会が主催する全国大会（14種目で実施）の見直しの動きが強まってきています。大会運営上の課題となっているのが、①大会経費削減、②主管校の負担軽減、③開催時期の見直しです。検討すべき課題は多く、高専ハンドにおいては競技力の向上に加え、普及・活性化も大きな課題となっています（現在、高専のハンドボール実施校は、全国63高専の内、約６割の39高専で実施）。

高専ハンドの活性化を目指し、今年度より高専OBを対象に、「がんばれハンドボール10万人会のサポート会員」を募っていくことになりました。このシステムを活用し、各方面で活躍しているOBを掘り起こし、ネットワークを新たに構築し、OBのマンパワーの組織的な支援を得る中で、生涯ハンドボールを見据え、OBと一体となった高専ハンドの新たな方向性を検討して行きたいと考えています。そのためには投資対効果に見合うような、OBへのきめ細かな対応が可能な、OB窓口を高専ハンド事務局内に設ける必要があります。

大会運営については経費削減の方向性の中で、現状の９地区の地区予選を統合して近隣の拡大ブロックで開催、あるいはインカレの東西大会のような規模で開催、さらには高専のスケールメリットを活かして、地区予選抜きで全高専参加の全国大会の開催等々、地区大会の在り方も含め、大きな見直しの動きが出てきています。

全国大会も将来的には、種目別開催の垣根をはずし、他の体育館種目と施設を共有しての大会開催や、OB交流大会を夜間に開催するなど、施設を有効活用し動員力を増し、活性化を図ることも可能です。また政府は、全国大会規模

の継続開催地となる自治体に、運営経費などの財政支援策を2005年より実施する方針を打ち出していますが、各自治体のイメージアップ、地域おこしと連動するなら、全国持回り開催から、高専ハンドのメッカとなる固定地開催も、大きな夢として検討の余地はあります。

最後になりましたが、今大会の開催にあたり準備・運営にご尽力いただきました愛知県ハンドボール協会、豊田高専大会運営関係者の皆様に感謝を申し上げ、大会報告とさせていただきます。

優勝チームの声

チーム一丸で勝ち取った3連覇

豊田高専ハンドボール部主将　**犬塚　恵介**

全国大会が近づくにつれ、校内の期待が大きくなっていくのを感じると同時に、優勝できるだろうと考えている人がほとんどだということに気がついた。準優勝という結果で喜んでくれる人は誰もいない。去年の夏に全国大会２連覇を果たし、次は地元開催の全国大会で３連覇だと単純に考えていたが、これほどまでにプレッシャーを感じるものだとは思わなかった。それだけのプレッシャーを感じていただけに、決勝の接戦を制したときの達成感と安堵感は大きかった。

決勝の相手は大阪府立高専。今年の３月に１度見ていたが、まるで別のチームのように強くなっていた。試合は終始、豊田が大阪を追う展開となった。豊田は得意のディフェンスで相手をロースコアに抑えるものの、思うように点が取れずリードすることができなかった。大阪のディフェンスの気迫に圧された部分もあるだろう。しかし、負けるかもしれないという考えは不思議と浮かんではこなかった。チーム全員が全国大会３連覇という目標に向かって努力してきたためだろうか、このチームなら逆転して勝つことができると信じることができた。結果、後半に追いつくことができ、延長の末勝つことができた。キャプテンとしてチームを運営していくのは本当に苦しく辛かった。しかし、チームの１人１人が強い気持ちを持っていたので頼もしいチームでもあったと思う。これで５年生は引退となるが、５年生以上に自覚を持ち、強い気持ちを持った部員が多いので、全国大会４連覇に向けて成長し、来年にはさらに強くなった豊田が全国の舞台で暴れてくれることを期待している。

最後になりますが、今まで一緒に努力してきたチームのみんなや監督、顧問、協力して頂いた方々、また、同じ優勝という目標に向かって戦った他高専の選手のみんなに感謝します。ありがとうございました。

審判部便り

平成15年度レフェリーコース報告

審査指導委員長
川島　克之
（愛知県立大府高校）

例年このコースの前期を８月上旬に山梨県で開き、後期を３月下旬愛知県で最終試験をというパターンが、ここ30数年定着して実施してきました。このコースは単なるレフェリーの資格を与えるということだけでなく、審判技術を短期間で取得するための意欲を育てること。また、将来は国際審判員まで目指して欲しい人材を発掘する場として設定されています。それ故、講義内容もトップレフェリー研修会で使用した資料を使っています。

近年、ハンドボール技術の向上著しく進歩し、スピーディーなゲームが多くなってきています。このコースのために準備するゲームの質と量が開催地で十分に確保することが難しくなってきた折、滋賀県長浜市においてハンドボールコート９面を使って高校生のプライベート大会を開催しているとの情報をもとに委員会として検討しました。結果、地元協会、連盟、業者等にお願いし、今年は８月中旬前期を実施致しました。審判技術を勉強するためにもより多くのゲームを担当することが望ましく、良かったのではないかと思います。後期は高校生より技術レベルを上げて、大学生のゲームを担当してもらうことにし、３月下旬関東で大学生のプライベート大会が実施されるとの情報が入り、それを最終試験に当てようとしました。しかし、今年度は調整がうまくいきませんでした。そこで、日本体育大学の松井幸嗣先生のご尽力により、日体大健志台体育館において七大学のチームに参加していただいてのモデルゲームを最終技術テストとしました。ご協力有難うございました。

合格者は次の５名の人達です。

徳光明博、松蔵利明（石川県）　岡田早紀子（大阪府）
庄屋亮二（鹿児島県）　松尾統央（愛知県）

各府県協会、各連盟において益々指導、助言をお願いしたいと思います。

中央が川島審査指導委員長、左が越智委員、右は島田委員。

レフェリーコースのあり方

年々参加者数が減ってきているのが気になります。昨年度14名の参加があり、今年度は７名でした。８月には各連盟等の大会が計画され、その大会の選手であったり、指導者であったり、また役員であったりして参加したくても参加できない現状だったと思います。しかし、このコースも夏季に実施せざるを得ません。今後も前期は長浜で実施していこうと思っています。８月第３週あたりに大会が設定されると思いますので、各都道府県協会、各連盟も頭に入れて協力していただけるとありがたく思います。また、将来審判員として活躍していただける人を推薦していただけることをお願い致します。

受講生の声

レフェリーコースを受講して：一からの審判修行

岡田早紀子（京都市立朱雀第三小学校）
（左ページ下段右端）

ハンドボールとの出会いは何気なく中学校（千種中学）で入部したことです。そこでハンドボールの魅力にとりつかれ、高校（東海女子）、大学（大阪体大）と恵まれた環境の中でハンドボールを続けてきました。私はハンドボールを通して心身共に成長できたと考えています。今の私にとって、ハンドボールとはかけがえのない存在になっています。

昔から審判にあこがれはありましたが、まさか私がという気持ちもありました。ペアもおらず、審判着、笛すらない私でしたが、ただやってみたいという好奇心からレフェリーコースに参加することにしました。これが私の平成14年、レフェリーコースに参加した始まりです。最初に感じたことは「来る場所を間違えた!!」というもので、ただ圧倒されて自宅に帰ってきました。一年目は笛を吹くだけで精一杯、結果は当然不合格。しかし、この経験が今の私に繋がっていると感じています。

島田房二先生にどうしたら上手くなれるか聞きました。たくさんのアドバイスを頂き、最後に「激しい試合に、強い女性を求めています」と言われました。これは私のことだ、何事も前向きに捉える私は頑張って強い女性審判員にならなければいけないと心に決めたのでした。そして、次年滋賀県でのレフェリーコース再チャレンジを決めました。

２年目の実技試験は、日体大での大学生関東リーグ一部の試合。即席ペアの松尾統央さんと笛を吹きました。二人でこれでもかと言うほど話し合い、ビデオを見て研究をしました。試合ではアイコンタクトを大切にして、息もピッタリ合わせることが出来ました。

初心者の私がここまでやってこられたのは、大阪市審判長の吉田敏人さんはじめ、恵まれた環境の中、多くの方にご指導を受け練習できたからだと思います。周りには、常に真剣にアドバイスしてくださる方がいて、支えられ、応援してもらっていると、人の温かさを感じられた一年でした。

今後は教員を目指し、指導者としても、審判としても子供達と共に全国大会（笑）に行きたいと思います。そして、これまで私が周りから支えられたように、今度は私が支える立場になれるよう精進していきたいと思います。150cm という小さい私ですが、信頼あるレフェリングで存在感をアピールしていきたいと思います。

※まだ固定したペアがおりません。現在募集中です（笑）。

レフェリーコースに参加して

松尾統央（町立東浦中学校）
（左ページ上段右端）

Ｂ級審判を志すきっかけとなったのが、中・高等学校とハンドボールをプレーしてきたにも関わらず、そのルールを把握していなかったことに気付いたことです。中学校教師としてハンドボールに携わっていくには、きちんと勉強するべきであると感じました。

レフェリーコースには、高等学校、大学の中でも質の高い試合を運営するという貴重な体験が待っていました。スピード感があり、パワフルなハンドボールがそこに広がっていました。自分の経験にないプレーやシュートがあるような試合をきちんと運営できるはずもない。選手の信頼を失い、審判によって試合が壊される結果を経験し、自分のふがいなさを痛感することとなりました。しかしハンドボールの審判として、自分の考え方が変わった瞬間がそこにあったと感じています。それは、一つ一つのプレーに対して真摯な態度で判定を下すよう心がけるようになったことです。

レフェリーコースに参加してハンドボールの審判にとって大切なことの一つが「ハンドボール観」であると教えられました。自分が選手にどのような試合をしてもらいたいかを常に考えて運営することです。ハンドボールの醍醐味は、力溢れるプレー、そしてスピード感ある試合展開に尽きます。そして、審判の醍醐味は、いかに選手の能力をクリーンな試合の中に引き出せるかであることに気付きました。今の私には選手の最高の能力を引き出すことができるかは疑問ですが、赤色のワッペンを着けることを誇りに思い、選手に信頼されるような審判になれるよう努めていきたいと思います。

ハンドボール フランス代表の強さ❷

男子ナショナルチーム
田場裕也（フランス：ニーム）

前号に引き続き、フランス、ニーム所属の田場裕也選手のレポートを掲載致します
田場選手は1975年9月12日、沖縄生まれ。沢岻小でハンドボールを始め、浦添中、興南高、日体大後、湧永製薬入り。スペイン留学後2年間湧永製薬に戻るが、一昨年からフランス一部リーグのニームで活躍。

速攻

出だしの速さでは、スウェーデンと同じ、もしくはそれ以上の速さを誇っているのがフランス代表の速攻です。DF隊形がアグレッシブなので、出だしが速いのは納得できますが、意外と3次速攻はスピードをセーブして落ち着いた速攻をするチームが多いのです。やはり速攻でミスが出てしまうと失点に繋がるということを意識したプレーだと思います。

また、速攻でドリブルを使うことは賢くないと指導されます。それはドリブルをするより、短くてもパスの方が、ミスを起こす確率も低いし、相手ゴールまでより速くボールをつなげることができるからです。

速攻に関しては、各チームによって考え方やシステムが違うのですが、基本としては、速い出だし、ポジショニング、タイミングの3つが重要になってきます。良いDFで速い速攻に繋ぎ得点という形が理想なのはフランスでも同じです。

逆速攻（バックチェック）

逆速攻（バックチェック）については、大切な試合前に必ず監督から、逆速攻での失点だけは避けるようにと指示がありますが、ほぼ日本と同じ考えなので省略します。
（日本と同じ考え＝速く戻る・早い段階で相手の速攻を止める・6mラインまで下がらない・9mのラインの中は確実に守る…等）

トレーニング

右上に僕たちチームの1週間のトレーニングスケジュールを記載します。

このトレーニング日程は時期やシーズンによって変化します。例えば、8月の合宿期などは、午前7時に60分間のクロスカントリーを行い、3月～5月などのシーズン終盤は、午前のトレーニングを行わない日が多くなります。

基本的には8月にフィジカルトレーニング（ウェイトトレーニングや走りこみ）で体を作り、前期のシーズンと後期のシーズンの間（12月の中休み）にもう一度体を作り直すというのが通例です。

月曜日	午前	（ウェイトトレーニング）60分
	午後	（フィジカルトレーニング　個人技） サッカー　20分～40分 ハンドボール　シュートなどの個人技 30分～60分
火曜日	午前	（ウィエトトレーニングもしくは走りのトレーニング）60分
	午後	（ハンドボール）ボールゲーム（タッチハンドやラグビーなど）20分 速攻トレーニング中心　60分
水曜日	午前	OFF
	午後	（フィジカルトレーニング） 軽い負荷のウェイトトレーニング　30分 バランスコントロールやボールコントロールトレーニング　30分 ハンドボール　基礎　1対1　2対2　3対3 2対1　3対2　30分
木曜日	午前	（ハンドボール）シュートトレーニング80分
	午後	（ハンドボール　戦術）ディフェンストレーニング中心　90分
金曜日	午前	OFF
	午後	（ハンドボール戦術） オフェンストレーニング　速攻　90分
土曜日	午前	OFF
	午後	ゲーム
日曜日	終日	OFF

日本と大きく違う点は、1回のトレーニングで平均1時間30分、長くても2時間以上行わないというところだと思います。やはりハンドボールは1時間の試合をどれだけ集中し考えて戦うかが重要なので、理にかなったトレーニング方法だと確信しています。

また「考えるスピードの違い」についても前号で述べましたが、やはり短時間トレーニングで集中している選手は、常に考えてプレーできるのだと思います。常に考えてプレーしている選手は、考える癖（良い癖）が身につきます。考える癖をもった選手は、考えるスピードも速く、予想外のケースに対しても速いスピードでベターに対処することができます。考えるスピードを上げるトレーニングは、現在明確にお伝えできませんので、引き続き調査します。

短時間トレーニングのもうひとつの利点として、1つのトレーニングで2つ以上、3つほどのトレーニングを効率的に行うことができます。例えば、日本でキーパートレーニングを行えば、シューターはキーパーにボールを当て、それをダラダラ拾って歩いて元の列に戻るというのが普通です。しかし、スペインやフランスでは、その同じトレーニングでも3つのトレーニングを行います。1つはキーパーに当てるコントロールトレーニング、2つはキーパーに当たって跳ね返るボールを素早く捕るリバウンドトレーニング、3つはリバウンドで捕ったボールを前方やドリブルで元の列まで走って戻る、単独速攻のトレーニング。このトレーニングを行っていれば、自然と歩くという動作が減ります。僕たちチームのトレーニングでも歩くとい

う動作はほとんど無く、ましてや座るという動作は休憩中でさえありません。もちろんトレーニング中に1分以上の休憩時間はありません。従って、短時間トレーニングの際は、1つのトレーニングでも複数の意味がある有意義なトレーニングを行う必要があります。

また上記のトレーニング予定の中では、サッカーを始め、バスケットボールやラグビーにタッチハンドボールなどのさまざまなボールゲームが行われます。その狙いは、1つのスポーツだけではトータル的な運動能力は伸びにくいと考えているからです。実際フランスに限らず、ヨーロッパの選手は、どのスポーツをやらせても平均以上です。

OFの指導法で日本と違う部分は、ドリブルから入るプレーは絶対的に禁止されています。これはヨーロッパでは当たり前の考えで、1998年～2002年まで全日本男子ハンドボールのコーチをしていた、スラニスラフ・コワルスキー氏(ノルウェー)やアテネオリンピック予選（神戸）日本代表コーチ：フレデリック・ボル氏（フランス）も毎回のトレーニングで、口うるさくドリブルから入るなと指導していました。また、日本リーグで活躍していたステファン・ストッククラン選手が4年目、5年目に急激に落ちた理由には、ドリブルから1対1を仕掛けていたのが原因のひとつではないかと思われます。

ドリブルは、自分のタイミングでプレーできるという利点はありますが、それ以上にミスが起こりやすい、DFが対応しやすい、DFを揺さぶることができない、OFのタイミングが合わなくなる、などのマイナス面が多く現れます。従ってこれからの指導は､パスに合わせてプレー（シュートやフェイント）し、歩数が合わない場合や相手DFの変化に合わせてドリブルを使えということです。わかりやすく言えば、ドリブルは最後まで取っておき、どうしても使わざる得ない状況、もしくはフェイントのあとに歩数あわせ程度で使うこと、日本のハンドボール界も取り入れる必要があると思われます。

フランス代表の報酬

日本ではプロ選手の明確な規定が無く、プロ選手への報酬も確立できていません。ここでは参考までにフランス代表選手への平均的な報酬額を記載してみます（フランス代表選手でも男子や女子、または国際Aマッチの出場数によって、日当や報奨金が変わります)。

選手へは日当（トレーニングや試合に対して1日に選手に支払われる金額）が支払われます。もちろん、同じ代表選手でも男子の選手は女子の選手より支払われる額が多く、ジャクソン・リシヤーソン選手などのスーパースターは特別扱いされます。日当以外にも選手に支払われる報奨金制度があります。例えばオリンピックや世界選手権で優勝した場合、などには各選手に支払われます。また、優勝でなくともその順位によって各選手受け取る額も異なってきます。

国際Aマッチは各試合に勝利給が支払われ、数年前までは強化の一環として、トレーニングマッチ（練習試合）でも勝てば勝利給が支払われていました。その金額が試合に出場できない選手（補欠選手）にも支払われていたという点は非常にユニークで、試合に出場できない選手も、試合に出る選手と同じモチベーションで戦うことができるシステムです。従って、常にチームがひとつになり、戦うごとに選手はモチベーションを上げることができたそうです。プロ選手を評価する唯一の手段は、金銭になってしまうので、金銭でモチベーションをあげるというのは、誤解された捉われ方をするケースもありますが、モチベーションのキャパシティーを上げるには優れた手段です。

最後に、ハンドボールは進化し、それに伴いトレーニング方法も進化しています。フランスハンドボール界も新しいシステムやフォーメーションプレーには敏感ですが、基本的なプレーやシステムは変わりません。日本においても、今一度基本的なプレーを再確認し、更なる発展のためのシステムを導入できれば、近い将来、全日本がオリンピックで金メダルを取ることも決して夢の世界ではないと信じています。

以上がこれまで私がフランスでの経験から得た教訓ですが、参考になればと思い、つたない文章になりましたが報告させていただきます。

活用したい貴重な財産

フリースロー Free Throw

企画・広報委員
早川　文司

アテネオリンピックは異常なほどの高まりを見せて終わったが、連日にわたって新聞、ＴＶなどのメディアはまさに五輪一色の感があった。大会ごとに関心が高まっているし、しかも今回は初日から柔道で男女そろっての金メダル獲得がいっそうの“狂想曲”を奏でることになったことは否めない。

こうした流れは当然ながら次の北京へ引き継がれることは想像に難くない。だからこそ出場を逃がした競技は惨めさがさらにつのってくる。今回は近代五種とハンドボールの２競技が出場を逃がした。ボールゲームでは唯一という寂しさだった。

史上最多のメダル獲得、東京大会と並ぶ金メダル獲得…メディアの大騒ぎが続くなかで、今回ほど唇をかみしめたことはない。

そうしたなかでお隣りの韓国は決勝で惜しくも金メダルは逃がしはしたが、銀メダルを手中にした。世界選手権３位に続いて復活のノロシを挙げたと言ってもいいだろう。

その韓国代表に広島メイプルレッズの林五卿、呉成玉両選手が世界選手権に続いて選ばれた。「低迷韓国」脱皮をバルセロナ金、アトランタ銀に輝いたベテラン２人に託したのだ。韓国は確固たるリーダーを求めて自信回復を図ろうとしたことは明らかである。そうした状況での今回の銀メダルは、大きな成果であったし、北京大会へのステップになったはずだ。

日本協会が北京へ向けてどのような手を打って出るか注目されるところだが、あえて言わせてもらえば、せっかく日本でプレーする彼女らの世界を知り尽くした経験と高度な技術など貴重な財産を生かしてもいいのではないだろうか。

なかでも林五卿の指導力、分析力と勝負に対する執念は、並々ならぬものがある。身近な存在だけに「力を借りる」ことも世界へのステップとして重要ではなかろうか。

彼女が来日して10年が過ぎ、すっかり日本になじんでいる。むしろ「日本のためなら…」と喜んでアドバイスすることは間違いない。

予選の仕組みも変わる。中国はともかくアジアを見渡しても復活韓国、カザフスタンの台頭、さらには北朝鮮も侮れまい。強化の立ち止まりは許されない。昨年から本格化した分析グループと連携し、すぐにでも彼女らの頭脳を活用したいと思うのだが…。

いい空を。いい時間を。

もっとくつろげる空へ。もっと楽しめる空へ。
あなたの空を笑顔で満たしたいから。
日本で、そして世界中で。あなたに、いい空を、いい時間をお届けしたい。
私たちひとりひとり、心を込めて、お迎えいたします。

ANA

A STAR ALLIANCE MEMBER

国内線のお問い合わせは、0120-029-222　国際線のお問い合わせは、0120-029-333　または、お近くの全日空代理店まで。
全日空ホームページ www.ana.co.jp

熊本県協会便り

全国大会優勝100回達成

熊本県ハンドボール協会理事長　葦原　大三（熊本県立鹿本商工高等学校）

昨年暮れの「第12回JOCジュニアオリンピックカップ」において女子中学選抜が優勝を果たし熊本県ハンドボール協会として全国大会優勝100回を達成いたしました。ここに、機関誌紙面をお借りし、報告させていただきます。

熊本県ハンドボール協会・全国大会優勝100回記念祝賀会

全国大会優勝100回を記念し祝賀会を、2月28日（土）19時から「熊本ホテルキャッスル」で100回の優勝メンバーをはじめ約300余名の出席を得て開催しました。

日本協会からは山下泉副会長、地元熊本県教育委員会からは久米野安俊教育次長をはじめ、ご来賓として熊本県体育協会所属の競技団体長、ハンドボールに縁の深い行政団体長、関係財界の皆様にご出席頂きました。

開会のあと、主催者である島田会長の挨拶、山下泉様、久米野安俊様のご祝辞に続き、歴代の監督チームの紹介ならびに記念品贈呈、そして優勝監督を代表して井薫さん（熊本県協会副会長・日本協会評議員）からの挨拶があり、祝宴に移りました。

祝宴は前熊本市長で熊本県ハンドボール協会・前会長の三角保之さんの乾杯のご発声で始まりました。

その後、各優勝チームの写真がスクリーンに写しだされると、司会の本田史郎（熊本放送アナウンサー）さんが、その時の様子や思い出などを巧みに当事者にインタビューされ、会場は優勝当時にあたかも戻ったような盛り上がりをみせました。

そして次代の熊本を担う、日本リーグ加盟の「オムロン」チーム、「ホンダ熊本」チームのメンバーに次の100回の優勝に向けての抱負・決意を語ってもらいました。

藤田八郎さんに100回の優勝の締め括りと、さらなる未来への夢を述べていただき、会は閉会いたしました。

全国優勝100回の歩み

熊本県協会の創生期

1947年（S22）県協会発足。県協会は北川浩氏（熊本市立監督）、藤田八郎氏（済々黌監督）両氏の熱意によりスタートしました。その後、両氏が創生期のハンドボールにご尽力されたのは言うまでもありません。

全国大会優勝の第1回目は、1954年（S29年）の藤田監督率いる済々黌が北海道国体における高校男子によるものでした。

2回目が北川監督率いる熊本市立高校が1956年（S31）兵庫国体の高校女子で優勝、ここから熊本市立高校が1960年（S35）までの間に5回の優勝を飾る。そのＯＧでつくる「熊本クラブ」、「熊本商大クラブ」が全日本総合で優勝を飾る。

太洋デパートから立石電機山鹿・オムロンへ

その翌年からは、井薫氏が監督を務めた地元実業団チーム「太洋デパート」が1962年岡山国体で初優勝をし、その後、1973年（S48）まで23回の全国大会優勝を飾る。

高校女子においては、1962年（S37）の岡山国体で荒木時弥氏監督の「菊池養蚕高校」が初優勝、1968年（S43）までに5回の全国優勝（現在、校名は菊池農業に変更）。

「太洋デパート」は1973年秋、火災により会社が解散になり、チーム存続の危機に陥ったが、行財政関係各位のご努力により、山鹿市の立石電機山鹿がチームを引き継ぐことになり「立石電機山鹿チーム」が生まれた。井薫監督・選手共に再スタートをきることができた。「立石電機山鹿」は1976年（S51）の佐賀国体の優勝から1986年（S61）までに16回の優勝を成し遂げ、井監督は勇退され、その後、西窪監督が就任、チーム名も「オムロン」に変更され、今日までに16回の優勝を飾っている。

熊本市立、菊池農業、太洋デパートの活躍で、熊本は女子が強く、男は「なんばしよっと＝何をしている」、とも言われていました。それもそのはず1977年（S52）に男子のマリスト中学が優勝し男子としてやっと2回目全国制覇ができたのです。このとき男女合計優勝回数46回目でありました。

中学生・小学生チームの頑張り

次の圧巻が1974年（S49）から1981年（S56）までの全国中学大会県勢女子の8連覇達成である。この8年間に「小川中学校」3回、「宇土鶴城中学校」4回、優勝し熊本を制す

れば全国を制するとまで言われました。

1987年（S62）男子の都呂々中学校、1988年・89年松橋中学校が全国中学大会で優勝し、県勢として全国3連覇を成し遂げる。これを機に1988（S63）年に第1回小学生大会で男子の三角東小学校が優勝、1990年（H 2）の福岡国体で少年男子が優勝、翌1991年（H 3）は男子の松橋中学校優勝・熊本市立商業高校（現千原台）がインターハイで初優勝、1992年（H 4）山形国体で成年男子2部優勝、1993年（H 5）には熊本市立商業が高校選抜優勝と、男子の活躍がみられた。

一貫指導体制システムから未来へ

平成になり、個の力から組織的システムが機能しだし、100回目の優勝がジュニア一貫指導体制システムから生まれた。

このように、50年間に、一般・高校生・中学生・小学生の全種別の男女が優勝を果たしたことに大きな意義があります。また、個々の力を組織的にシステム化することを進めてきた。100回目の全国優勝がジュニア一貫指導システムから生まれたことは、次なる100回に向けて方向を示してくれた。

100回優勝の考察

創世記の指導者の熱意

北川浩氏（熊本市立高校勤務）と藤田八郎氏（済々黌高校勤務）は日本体育大学卒業後、地元熊本の高校に奉職され、チーム育成の傍ら、協会を設立され独創的な指導、アイディアあふれる普及活動等に奔走され、現在の基盤を築かれた。

ライバルの出現

①熊本国体開催の1961年（S36）以降、北川浩監督の「熊本市立高校」に荒木時弥監督の「菊池農業高校」が挑み5度の全国制覇を達成、その後1969年に「熊本女子商業＝現熊本国府」の井手和洋監督が参戦、井手監督は1973年（S48）

熊本県ハンドボール協会　全国優勝100勝への歩み

回数	年度	大会名	優勝チーム	監督名
1	S29	9回国体（北海道）	高校男子　済々黌	藤田　八郎
2	S31	11回国体（兵庫）	高校女子　熊本市立	北川　浩
3	S33	9回高校総体（函館）	女子の部　熊本市立	北川　浩
4	S34	10回高校総体（仙台）	女子の部　熊本市立	北川　浩
5		14回国体（東京）	高校女子　熊本市立	北川　浩
6	S35	11回高校総体（倉敷）	女子の部　熊本市立	北川　浩
7		6回全日本室内総合	女子の部　熊本クラブ	北川　浩
8	S36	7回全日本室内総合	女子の部　熊本商大クラブ	北川　浩
9	S37	17回国体（岡山）	高校女子　菊地農蚕	荒木　時彌
10		〃	一般女子　大洋デパート	井　薫
11	S38	18回国体（山口）	一般女子　大洋デパート	井　薫
12		15回全日本総合	女子の部　大洋デパート	井　薫
13	S40	20回国体（岐阜）	高校女子　菊地農蚕	荒木　時彌
14		17回全日本総合	一般女子　大洋デパート	井　薫
15	S41	21回国体（大分）	高校女子　菊地農業	荒木　時彌
16		6回全日本実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
17	S43	19回高校総体（広島）	女子の部　菊地農業	荒木　時彌
18		23回国体（福井）	高校女子　菊地農業	荒木　時彌
19		〃　【天皇杯受賞】	一般女子　大洋デパート	井　薫
20		20回全日本総合	女子の部　大洋デパート	井　薫
21		9回全日本実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
22	S44	24回国体（長崎）	一般女子　大洋デパート	井　薫
23		10回全日本実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
24		16回全日本選抜	女子の部　大洋デパート	井　薫
25		21回全日本総合	女子の部　大洋デパート	井　薫
26	S45	25回国体（岩手）	一般女子　大洋デパート	井　薫
27		11回全日本実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
28		17回全日本選抜	女子の部　大洋デパート	井　薫
29		22回全日本総合	女子の部　大洋デパート	井　薫
30	S46	26回国体（和歌山）	一般女子　大洋デパート	井　薫
31		12回全国実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
32	S47	27回国体（鹿児島）	高校女子　熊本選抜	井手　和洋
33		〃	一般女子　大洋デパート	井　薫
34		13回全日本実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
35		19回全日本選抜	女子の部　大洋デパート	井　薫
36	S48	沖縄特別国体	高校女子　熊本女子商業	井手　和洋
37		20回全日本選抜	女子の部　大洋デパート	井　薫
38		14回全国実業団	女子の部　大洋デパート	井　薫
39	S49	3回全国中学（奈良）	女子の部　小川中	平井　徳子
40	S50	4回全国中学（石川）	女子の部　鶴城中	宮本　民子
41	S51	5回全国中学（大阪）	女子の部　氷川中	園田　聰正
42		31回国体（佐賀）	一般女子　立石電機山鹿	井　薫
43		全国実業団	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
44		1回日本リーグ	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
45		28回全日本総合	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
46	S52	6回全国中学（茨城）	男子の部　マリスト中	小柳　新一
47		〃	女子の部　鶴城中	宮本　民子
48		32回国体（青森）	少年女子　熊本選抜	井手　和洋
49	S53	7回全国中学（愛知）	女子の部　小川中	平井　徳子
50	S54	8回全国中学（東京）	女子の部　鶴城中	宮本　民子
51	S55	9回全国中学（熊本）	女子の部　小川中	平井　徳子
52		5回日本リーグ	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
53	S56	22回全日本実業団	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
54		10回全国中学（山口）	女子の部　鶴城中	宮本　民子
55		6回日本リーグ	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
56	S57	23回全国実業団	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
57		34回全日本総合	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
58		7回日本リーグ	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
59	S58	24回全日本実業団	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
60		38回国体（群馬）	成年女子　立石電機山鹿	井　薫
61		8回日本リーグ	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
62		35回高校総体（秋田）	女子の部　熊本市立	泉　浤
63		39回国体（奈良）	成年女子　立石電機山鹿	井　薫
64	S60	37回全日本総合	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
65	S61	11回日本リーグ	女子の部　立石電機山鹿	井　薫
66	S62	16回全国中学（岐阜）	男子の部　都呂々中	矢住　嘉孝
67	S63	15回全国高専	八代高専	四宮　一郎
68		1回全国小学生	男子の部　三角東小	田口　敏治
69		17回全国中学（福島）	男子の部　松橋中	平井　徳一
70	H元	18回全国中学（山口）	男子の部　松橋中	平井　徳一
71	H2	3回全国小学生	女子の部　網津小	堀内　澄夫
72		45回国体（福岡）	少年男子　熊本選抜	大宮　泉
73		〃	成年女子　オムロン	西窪　勝広
74	H3	42回高校総体	男子の部　熊本市立商業	大宮　泉
75		20回全国中学（熊本）	男子の部　松橋中	平井　徳一
76		46回国体（石川）	成年女子　オムロン	西窪　勝広
77	H4	47回国体（山形）	成年男子2部　ALL熊本	元杉　和義
78		44回全日本総合	女子の部　オムロン	西窪　勝広
79		17回日本リーグ	女子の部　オムロン	西窪　勝広
80	H5	16回高校選抜	男子の部　熊本市立商業	大宮　泉
81		48回国体（香川）	成年女子　オムロン	西窪　勝広
82		18回日本リーグ	女子の部　オムロン	西窪　勝広
83	H6	3回ジュニアオリンピック	女子の部　県選抜	矢住　嘉孝
84		17回高校選抜	女子の部　熊本国府	宮瀬　知周
85		7回全国小学生	女子の部　宇土花園小	中野　靖士
86		49回国体（愛知）	成年女子　オムロン	西窪　勝広
87		46回全日本総合	女子の部　オムロン	西窪　勝広
88	H7	47回全日本総合	女子の部　オムロン	西窪　勝広
89	H8	20回日本リーグ	女子の部　オムロン	西窪　勝広
90		1回ジャパンオープン	女子の部　熊本クラブ	井手　和洋
91		25回全国中学（岐阜）	女子の部　松橋中	浦塘　勝彦
92		48回全日本総合	女子の部　オムロン	西窪　勝広
93	H9	22回日本リーグ	女子の部　オムロン	西窪　勝広
94	H10	50回全日本総合	女子の部　オムロン	西窪　勝広
95	H11	54回国体（熊本）	少年男子　熊本選抜	大宮　泉
96	H12	41回全日本実業団	女子の部　オムロン	西窪　勝広
97		55回国体（富山）	成年女子　オムロン	西窪　勝広
98	H13	14回全国小学生	男子の部　玉名町小	土田　幸生
99		56回国体（宮城）	成年女子　オムロン	西窪　勝広
100	H15	12回ジュニアオリンピック	女子の部　県選抜	松本　政之

に沖縄特別国体で全国初制覇の後、熊本国府高校は現在までインターハイ出場22回を誇る。高校女子は現在、北島潤一監督の松橋高校が台頭し、この10年近く二強時代を迎えている。

②中学女子では1974年（S49）からの平井徳子監督の小川中学校と宮本民子監督の宇土鶴城中学校の争いはすさまじいものがあった。8年間に小川3回、宇土鶴城4回の全国優勝を果たしている。

③中学男子の矢住嘉孝監督の「都呂々中学校」と平井徳一監督の「松橋中学校」が1987年(S62)頃から熾烈な争いを続けた。この両氏の教え子がその後熊本県の男子の中心として活躍している。

④高校男子は大宮泉監督の「熊本市立商業高校＝現千原台」が平成入りインターハイへ14回出場しているが、楽な予選はほとんどなかった。国体少年男子は1990年（H 2）・1999年（H 11）2度の優勝をしているが、多くのライバル校のからのメンバーで編成された選抜チームでの優勝である。

強化と平行して実施された普及活動

①国体（1961年（S36）に第16回国体を県南の水俣市で開催）後の活動

・「教職員大会」開設

ハンドボールを普及するためにハンドボール顧問の先生方を対象とした「教職員大会」を始めた。開催期日を、他の競技のオフシーズンの12月の第1土日にしたのがあたり、参加しやすく参加チームが増加した。その後、素人の先生が取り組み易いように競技規則を工夫して、ますます人気の大会になり暮れの名物行事になった。ここ20年は毎年約90チームの参加がある。

・「室内総合選手権」7人制への移行に伴い、体育館での大会開始

一般の部を正月に開催した。通称「正月大会」といわれ、冬休みの帰省者も含め多くの参加者で賑わった。1970年（S45）頃からはクラスマッチの代表まで参加する100チーム越えるマンモス大会なった。平成になり正月の施設の確保が困難になり、大会の幕を閉じた。しかし、中学生室内大会・小学生室内大会は現在も継続し行われている。

②小学生の普及

・地元紙「熊本日日新聞社」主催学童五輪が1975年にスタート

当初5競技で始められ、ハンドボールは協会のはたらきかけで、第1回大会から採用された。紙面にハンドボールの試合の模様・チームおよび選手の紹介などが掲載され、普及に大きな役割を果たしてきた。

③地域協会の育成

熊本県民体育祭にハンドボールを採用してもらい。各郡市に出場を要請、地域協会が設立されていった。この地域協会が独自の大会を開設している。特に小学校・中学校大会には県協会が共催をして連携を図っている。

④一般県リーグ連盟の設置

1972年（S47）～現在まで年2回開催で65回目の大会を迎えている。現在の参加チーム35チームで5部制で実施している。この参加チームのメンバーが、地域協会主催大会の運営や県内大会の審判を支援している。

⑤日本リーグホームゲームの活用

地域協会の主管で、会場の管理・集客など行い地域協会の組織拡充を図っている。

指導者の育成

1954年の全国大会1回目優勝「済々黌」のポイントゲッターは竹野奉昭氏です。その高校の後輩が井薫氏です。竹野氏は1972年ミュンヘンオリンピック男子コーチを経て、1976年モントリオールオリンピック監督を務められた。井氏は1976年モントリオールオリンピックの女子の監督を務められた。この両氏を始め、多く先輩が日本のハンドボール発展に寄与されたことは言うまでもありません。

イベント開催の効用

1997年の第15回男子世界ハンドボール選手権、1999年の第54回国民体育大会、2000年シドニーオリンピックアジア予選、2001年全国高校総合体育大会を開催してきた。大会開催をすることで、県民の意識の高揚、若い人の興味関心を高め、ハンドボールへの求心力をつけている。

マスコミとの連携

地元紙・地元放送局との連携を密に図り、紙面掲載、放映の扱いを多くする努力をしてきた。定期的に報道関係との懇談会を開催して理解を求めている。2003年からインターハイ予選の決勝戦を、地元テレビ局で中継放送を始めた。このことは、ハンドボール目指す小中学生をはじめ、多くの人にハンドボールの認知度を高める役割を果たしている。

強化組織の活用

NTSをモデルに熊本県トレーニングシステム「KTS」を組織して熊本県体育協会の補助を受け活動をしている。この活動の成果が100回目優勝の「女子中学選抜チーム」です。このチームは7つの中学校から16名の選手で構成され、正にシステムの勝利と言える。

おわりに

最後に半世紀におよびここまで本県協会を築かれてきた先輩の財産を糧に、21世紀さらなる進化を続けるために、協会役員をはじめ、すべてのハンドボーラーは競技普及発展のために、具体的目標を掲げ、その達成にむけ努力することをお約束し、お礼の言葉とします。

連載46

NTS2004報告

NTSコーディネーター 栗山 雅倫

夏の暑さ同様、アテネオリンピックの興奮がまだまだ続いています。次のオリンピックには、是非日本男女チームのハンドボール放映で興奮したいものです。NTSとしても、皆様方の引き続きましてのご指導を切にお願い申し上げます。

さて、既に各地区にてNTS2004・ブロックトレーニングが展開されています。各ブロックから、5年目を迎えての充実感が、続々報告されてきております。また、今回は既報の通り、北信越、関東の2ブロックで、JHLの支援による、「サマーキャンプ」という形態での実施をいたしました。どちらも初回とは思えぬ充実した会となりました。詳細については次号あらためてご報告させていただきますが、以下簡単にご報告いたします。

【JHLサマーキャンプin北信越&関東】

選ばれた小中高生によるNTSブロックトレーニングと平行して、JHLの研修会、有資格者の研修会が催されました。ブロックトレーニングには、研修会参加者による指導実習も加わったため、従来のインストラクターが幾重に増強されたような賑わいが感じられました。研修会は全般を通して受講形式のものではなく参加型、参加指導者の指導カテゴリーを越えた、互いの情報交換が実現でき、新たな研修会の方向性を見出せたのではないでしょうか。一方、初の試みで、連絡の未整備な部分、また、準備等の不手際も否めず、今後の課題として上げられます。研修会参加者のアンケートでは、「これまでにない緊張感と充実感を得た・・・」といったものも多く寄せられ、今後の展開にむけての大きな励みとなりました。

受け入れをしていただいた北信越ブロック、関東ブロック関係の皆様方、本当にありがとうございました。

北信越地区

開催：新潟県柏崎市体育館　日時：8月10・11日

数年のうちに、国体を控える新潟県のスタッフの意気込みは、並々ならぬものを感じました。初の開催にもかかわらずの奮闘振り、心より御礼申し上げます。

関東地区

開催：中央大学体育館　日時：8月30・31日

マンモスブロックである関東地区でのサマーキャンプ、東京都協会の皆様方の支えなくしては、なし得ませんでした。心より御礼申し上げます。

昨年度まで日本協会の参事をされており、本年アメリカ転勤に伴い辞任されました徳高康弘さんから大西専務理事と機関誌宛にお便りが届きました。専務理事と、ご本人の了承が得られましたのでご紹介致します。（編集部）

ご無沙汰しております。ハンドボールには縁のない土地柄である米国でも、女子の3位決定戦と決勝、男子決勝は放映されました。勝負どころで突如CMが延々と流れるなど、閉口する場面も多かったですが、当初はTV放映はないものと思っておりましたので、観戦できただけラッキーと思わないとバチが当たるのかもしれません。（女子の試合は第二延長が終わったところでタイマー録画が切れてしまいましたが・・・）

ところで、米国では、アテネ五輪はNBCという放送局が独占中継したのですが（含む傘下ケーブル局）、同局の中継で解説を務めた女性（ドーン・ルイス）は、アトランタ五輪代表で現在も五輪組織委のメンバーだそうです。その彼女が、NBC.comに興味深い記事を寄稿していますので以下に、ご紹介します。NBCの方でアテネ関連のHPをいつまで維持するのかはよく分からないのですが、ハンド不毛の地である米国で、まがりなりにも競技の紹介・解説が行われていたという事実は、私にとって非常に興味深いものでした。

http://www.nbcolympics.com/dawnlewis

追伸：NBAのスター選手であるノヴィツキーが幼少時代はハンドボール少年だったそうです。

それでは失礼します。時節柄くれぐれもご自愛下さい。

2004. 8. 29　　徳高　康弘

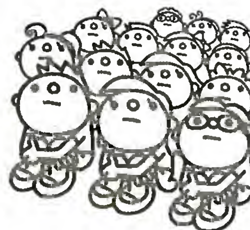
（編集部より：徳高元参事からアメリカレポートも届いておりますので、次号以降でアメリカのハンドボール事情を紹介致します。）

「ハンドボール研究」第6号刊行!!

「ハンドボール研究」第6号が刊行されました。内容は下記の通りです。内容満載、ぜひご購入下さい。希望される方はタイトル、下記の事項を記入の上、現金書留にてお申し込み下さい。

申込先：〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
日本ハンドボール協会『ハンドボール研究第6号』申込係
記入事項：注文タイトル、注文数、購入希望者氏名、送付先（郵便番号、住所、TEL）
1冊1,200円（送料込み）

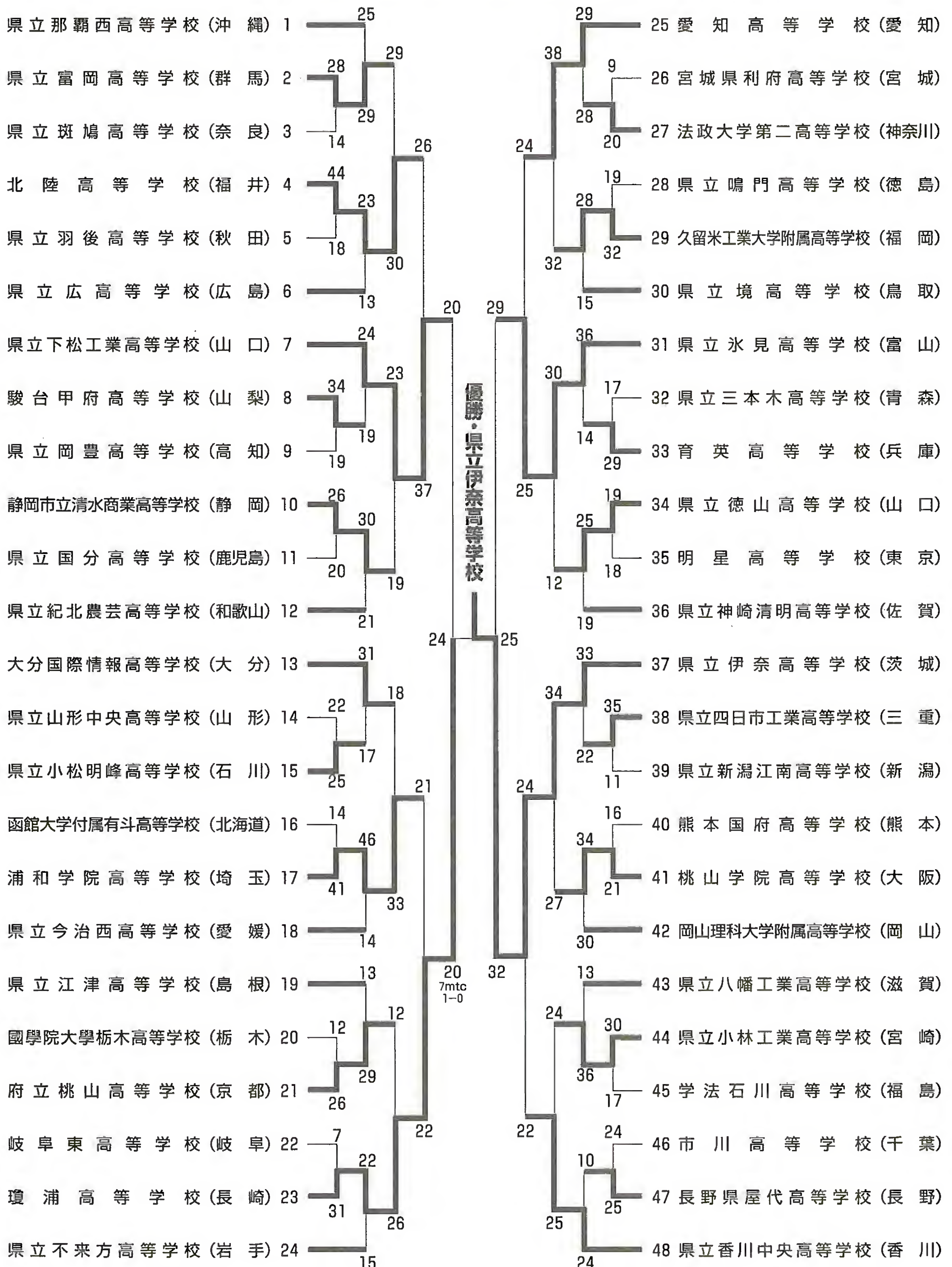
目次



平成16年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第55回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

男子試合結果

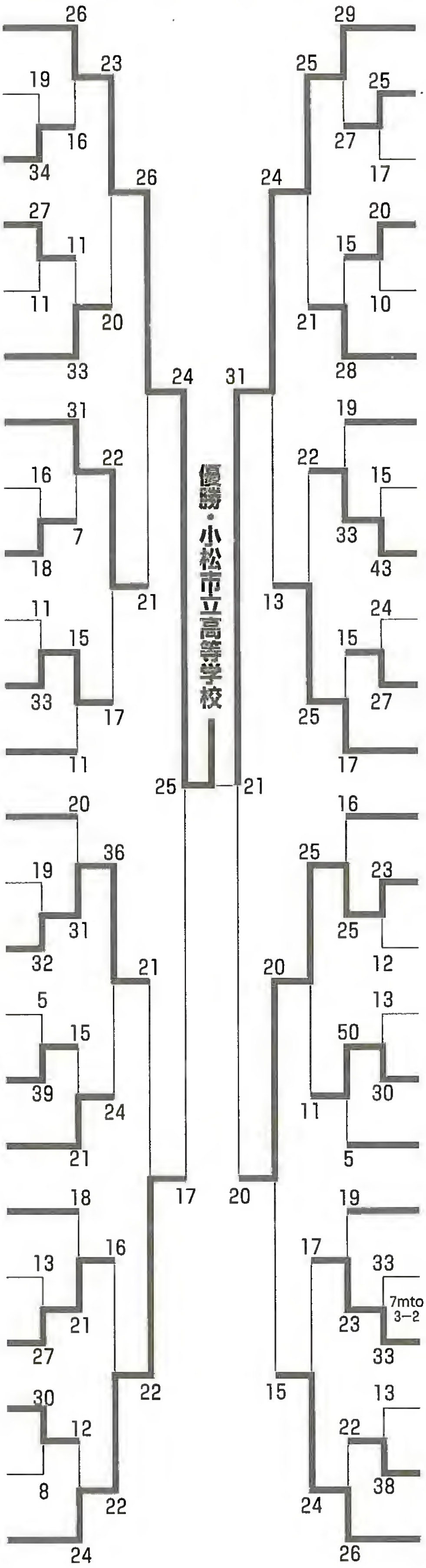


平成16年度全国高等学校総合体育大会

高松宮賜杯　第55回全日本高等学校ハンドボール選手権大会

女子試合結果

小松市立高等学校（石　川）1	25 桜花学園高等学校（愛　知）
県立東根工業高等学校（山　形）2	26 府立洛北高等学校（京　都）
暁　高　等　学　校（三　重）3	27 聖和学園高等学校（宮　城）
宮崎学園高等学校（宮　崎）4	28 聖和女子学院高等学校（長　崎）
県立池田高等学校（徳　島）5	29 北海道札幌月寒高等学校（北海道）
白梅学園高等学校（東　京）6	30 県立吉井高等学校（群　馬）
宣　真　高　等　学　校（大　阪）7	31 付属佐賀女子高等学校（佐　賀）
県立日川高等学校（山　梨）8	32 県立賀茂高等学校（広　島）
県立青森中央高等学校（青　森）9	33 県立大曲農業高等学校（秋　田）
長野県屋代高等学校（長　野）10	34 浦和実業学園高等学校（埼　玉）
筑紫女学園高等学校（福　岡）11	35 県立福井商業高等学校（福　井）
県立境高等学校（鳥　取）12	36 県立香川中央高等学校（香　川）
県立水海道第二高等学校（茨　城）13	37 横浜創英高等学校（神奈川）
静岡市立清水商業高等学校（静　岡）14	38 熊本国府高等学校（熊　本）
県立大分鶴崎高等学校（大　分）15	39 県立総社南高等学校（岡　山）
県立江津高等学校（島　根）16	40 県立添上高等学校（奈　良）
県立郡山東高等学校（福　島）17	41 県立高山高等学校（岐　阜）
夙川学院高等学校（兵　庫）18	42 県立中村高等学校（高　知）
県立華陵高等学校（山　口）19	43 県立小杉高等学校（富　山）
県立国分高等学校（鹿児島）20	44 高　水　高　等　学　校（山　口）
県立彦根翔陽高等学校（滋　賀）21	45 県立不来方高等学校（岩　手）
県立松山北高等学校（愛　媛）22	46 初芝橋本高等学校（和歌山）
県立巻高等学校（新　潟）23	47 県立栃木商業高等学校（栃　木）
昭和学院高等学校（千　葉）24	48 県立浦添高等学校（沖　縄）



スコアールーム ①
第24回全国クラブハンドボール選手権大会・東地区大会

開催期日　平成16年7月17日(土)～19日(月)
会　　場　本宮町総合体育館、本宮体育館、本宮高校体育館

■男子
会長杯トーナメント

＜１回戦＞

野辺地クラブ	33（15－６、18－11）17	玉川クラブ
きときとクラブ	25（14－８、11－10）18	神楽坂会
学石クラブ	33（17－８、16－10）18	如月クラブ
RAZE	31（11－12、20－10）22	湖陵クラブ
小金クラブ	18（７－６、11－７）13	小松ウェンズデー
青商クラブ	33（14－11、19－11）22	栃の葉クラブ
福島MTS	27（13－12、14－９）21	Wrangler
紫嵐会	棄権	蓮田クラブ

＜２回戦＞

野辺地クラブ	27（12－11、15－10）21	きときとクラブ
RAZE	33（17－６、16－14）20	学石クラブ
小金クラブ	23（10－６、13－12）18	青商クラブ
紫嵐会	24（12－９、12－12）21	福N島MTS

＜準決勝＞

RAZE	26（12－９、14－13）22	野辺地クラブ
小金クラブ	20（13－３、７－12）15	紫嵐会

＜決　勝＞

小金クラブ	30（16－14、14－８）22	RAZE

優勝　小金クラブ（千葉）　初優勝
２位　RAZE（東京）
３位　野辺地クラブ（青森）、紫嵐会（宮城）

町長杯トーナメント

＜１回戦＞

神楽坂会	26（11－８、15－９）17	玉川クラブ
湖陵クラブ	35（17－11、18－11）22	如月クラブ
栃の葉クラブ	31（14－13、17－９）22	小松ウェンズデー
Wrangler	棄権	蓮田クラブ

＜準決勝＞

神楽坂会	24（８－６、16－５）11	湖陵クラブ
栃の葉クラブ	22（11－11、11－７）18	Wrangler

＜決　勝＞

神楽坂会	23（８－６、15－９）15	栃の葉クラブ

■女子
会長杯トーナメント

＜1回戦＞

YAM	24（13－５、11－６）11	萩江クラブ
福島クラブ	19（７－13、12－５）18	筑波学園クラブ
オレンジクラブ	20（11－８、９－４）12	野辺地クラブ

＜準決勝＞

氷見クラブ	22（10－５、12－12）17	YAM
オレンジクラ	22（７－６、15－４）10	福島クラブ

＜決勝＞

氷見クラ	19（９－７、10－４）11	オレンジクラブ

（氷見クラブは2年連続3度目の優勝）

優勝　氷見クラブ（富山）　２年連続３回目の優勝
２位　オレンジクラブ（栃木）
３位　YAM（埼玉）、福島クラブ（福島）

町長杯トーナメント

＜1回戦＞

筑波学園クラブ	21（15－11、６－９）20	野辺地クラブ

＜決　勝＞

筑波学園クラブ	19（10－７、９－８）15	萩江クラブ

スコアールーム ②
第24回全国クラブハンドボール選手権大会・西地区大会

開催期日：　平成16年7月16日(金)、17日(土)、18日(日)
会　　場：　高知県立高知県民体育館、高知女子大学池体育館

■男子
予選リーグ・Aブロック

下松クラブ２	27（12－５、15－14）19	清商クラブ
下松クラブ２	21（11－10、10－６）16	PF須磨東クラブ
PF須磨東クラブ	27（14－10、13－14）24	清商クラブ

予選リーグ・Bブロック

京友クラブ	28（15－７、13－14）21	弓ヶ浜クラブ
高知クラブ	23（11－８、12－15）23	京友クラブ
高知クラブ	28（15－12、13－８）20	弓ヶ浜クラブ

予選リーグ・Cブロック

中央クラブ	27（12－11、15－11）22	大瀬クラブ
中央クラブ	37（19－７、18－10）17	福岡教員
大瀬クラブ	29（16－13、13－15）28	福岡教員

予選リーグ・Dブロック

ボンチフェローズ　23（13－6、10－14）20　ACウィンズ
ボンチフェローズ　23（8－13、15－8）21　白石クラブ
ACウィンズ　23（15－8、8－13）21　白石クラブ

◇順位決定戦

5位7位決定戦

PF須磨東クラブ　31（15－11、16－11）22　京友クラブ
ACウィンズ　22（12－9、10－10）19　大瀬クラブ

9位11位クラブ

清商クラブ　27（14－9、13－7）16　弓ヶ浜クラブ
白石クラブ　27（16－12、11－12）24　福岡教員

◇決勝トーナメント

1回戦

下松クラブ2　27（16－7、11－9）16　高知クラブ
ボンチフェローズ　26（12－11、14－7）18　中央クラブ

3位決定戦

中央クラブ　19（10－7、9－8）15　高知クラブ

決　勝

下松クラブ2　31（16－7、15－11）18　ボンチフェローズ

■女子

1回戦

熊本クラブ　31（16－7、15－3）10　愛媛ハンドボールクラブ
香川レディース　20（7－10、13－8）18　大阪教員
Team和　21（7－5、14－3）8　高知クラブ
風見鶏クラブ　18（8－9、10－6）15　FCC

5位7位決定戦1回戦

大阪教員　20（10－6、10－10）16　愛媛ハンドボールクラブ
FCC　34（12－4、22－4）8　高知クラブ

5位7位決定戦

FCC　23（7－11、16－7）18　大阪教員

7位8位決定戦

愛媛ハンドボールクラブ　26（12－3、14－8）11　高知クラブ

準決勝

熊本クラブ　24（10－8、14－3）11　香川レディース
風見鶏クラブ　23（12－6、11－5）11　Team和

3位決定戦

Team和　23（13－10、10－12）22　香川レディース

決　勝

熊本クラブ　16（8－5、8－6）11　風見鶏クラブ

スコアールーム③　第31回全国高等専門学校ハンドボール選手権大会

開催期日　平成16年8月7日(土)～8日(日)
会　　場　愛知県体育館

◇予選リーグ＜(1)　ブロック＞

大阪府立高専　19（7－6、12－10）16　米子高専
大阪府立高専　36（18－6、18－6）12　有明高専
米子高専　29（13－13、16－10）23　有明高専

＜順位＞
1位　大阪府立高専　2位　米子高専
3位　有明高専

◇予選リーグ＜(2)　ブロック＞

八代高専　30（11－12、19－14）26　東京高専
八代高専　26（12－9、14－10）19　岐阜高専
東京高専　22（11－11、11－8）19　岐阜高専

＜順位＞
1位　八代高専　2位　東京高専　3位　岐阜高専

◇予選リーグ＜(3)　ブロック＞

豊田高専　10（5－1、5－3）4　一関高専
豊田高専　23（12－5、11－8）13　富山高専
一関高専　20（7－7、13－10）17　富山高専

＜順位＞
1位　豊田高専　2位　一関高専　3位　富山高専

◇予選リーグ＜(4)　ブロック＞

高知高専　23（9－2、14－9）11　明石高専
高知高専　28（12－6、16－7）13　呉高専
明石高専　21（12－11、9－9）20　呉高専

＜順位＞
1位　高知高専　2位　明石高専　3位　呉高専

＜準決勝＞

大阪府立高専　29（15－6、14－15）21　八代高専
豊田高専　20（10－8、10－2）10　高知高専

＜決　勝＞

豊田高専　15（4－6、8－6）14　大阪府立高専
（0－1延長3－1）

■最終成績

優　勝　豊田高専（3年連続6回目）
準優勝　大阪府立高専
第3位　高知高専　八代高専

平成16年度7月常務理事会

日　時　平成16年7月25日（土）
場　所　広島市東区スポーツセンター会議室
出席者　渡邊会長、山下副会長、
　　　　大西専務理事、常務理事5名、
　　　　監事2名、事務局3名

山下副会長より、今回のアジア女子選手権は全チームに世界選手権に出場権が与えられるため、マスコミも興味薄であるが、我々はそれを如何に価値ある大会にするかである。それはアジアチャンピオンになることであり、AHFとの関係を密にすることである。

審議事項

1. 第1回アジア女子ビーチハンドボール選手権大会

開催までの経緯もあり、時間的な問題で協賛金は期待薄であるので、大会経費は全額日本協会負担とせざるを得ない。

大西専務は、タイでのアジア女子ジュニア選手権に参加して感じたこととして、アジアの大会では皆顔見知りであり、ビーチハンドボールのアジア大会を開催することの意義は大きいと説明した。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2. 第59回埼玉国体会期中役員動向（案）

開催地に宿泊施設が少ないため、8月23日については地元役員の枠を譲っていただく方向でいる。表彰などそれ以外の日の宿泊に関しては、都内に宿舎を取ることで確認、事務局に一任する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3. 平成16年度大会役員派遣予定（案）

男子ナショナルが参加するアルアーラム大会には大崎電気チーム副部長に役員として参加していただく。アジア男子ジュニア大会（インド）は監事に、世界ビーチ（エジプト）及び男子世界選手権はペンディングとする。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4. 第60回岡山国体ブロック割当数（案）

16チームの種別だと、都道府県1チームの増減でかなりの影響が出る。

国体の趣旨はわかるが、現状では枠の少ないブロックでは常に出られないところがある。例えば、日本協会枠（会長推薦枠）の様なものを設置し、出場枠の少ないブロックに配分してはどうか。一極集中となってはいけない。普及とチーム数の関係で考えなければならないと大西専務から回答がなされた。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5. 平成17年度会議日程（案）

第1回評議委員会を高校ブロック大会開催を考慮して6月11日に変更する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6. AHF総会議題・役員・委員候補について

上記候補者に関しては会長、副会長、専務理事に一任する。

AHF役員、審判員の受け入れ経費は日本協会負担となっているが、海外へ出て行く審判経費は日本協会が負担している。AHFルールの確認を行う。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

7. オリンピックプロジェクトについて

今後の強化施策をさらに具体化させる。

海外で行うナショナルマッチを在外企業にバックアップをお願いする。

財界、著名人によるバックアップ（100人会）をお願いする。

強化部も集金に関する視点が欲しいし、資金担当セクションを設置して欲しい。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

8. 選手デザインTシャツ販売についておよびオリジナルグッズ販売提案企画書

トータル的に考え、マーケティング委員会で検討し次回常務理事会で方針を示す。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

9. NTS2004DVD販売について

販売価格に関しては承認、ビデオは在庫消化のための値下げを承認。

物品の販売に関しては、今後マーケティング委員会に一元化し、全てマーケティング委員会で統合する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

その他

①JISS体育館のコートは2面とする。
②登録金に関する検討は、担当常務理事を中心として早急にまとめる。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1. 平成16年度大会結果、予定（組合せ）
2. 国民体育大会関係日体協通知資料（関係分）
3. U-12指導法講習会開催について（小学生大会時）
4. 第29回日本リーグ日程、チャレンジリーグ、トップリーグ連絡協議会
5. 10万人会

福島、千葉、香川で都道府県協会会員の大幅増がみられ、総数が2000人を超えた。

6. 団体用totoデビット会員カードについて

8月中旬に1000枚が配布される。都道府県協会には20枚ずつ配布し、使用協力を依頼する。

7. その他

①SSKより20万円の寄附があった。
②プラクティスTシャツ販売を今後も勧める。
③規定集を印刷に回す旨平岡常務理事から報告がなされた。
④今後、常務理事会の事務局からの連絡はメール一本化で対応する。
⑤次会、常務理事会は9月4日に開催する。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」8月入会・継続会員

【北海道】駒林昭三【宮城】大河原浩気【茨城】増田　徹【千葉】大林　俊、鈴木秀義【東京】遠藤　稔、遠藤順子、佐藤佳子【神奈川】久保弘毅【山梨】天川正次、栗原富貴子【静岡】山田久美子【愛知】笹野邦雄、河合保典【岐阜】中島明美【京都】吉田博二【大阪】望月伸三郎、亀石正人【兵庫】柿木國夫、新坂智子【奈良】中村　治【広島】原さおり、増田数重、青戸克好、両徳良樹、岩本真枝【山口】西川精二【愛媛】河本武夫【福岡】伊藤康雄【佐賀】久保田秀光【長崎】新井善文【熊本】西窪勝広

【10月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………

10月23日　全国理事会

10月24日　常務理事会

【大会】……………………………………………………………

10月23日～28日　国民体育大会

寄　付

8月6日、愛媛県の越智武さんから日本協会宛の寄付がありました。ありがとうございました。越智さんには日本協会より感謝状を送らせていただきます。

HAND BALL CONTENTS Oct

（登録チームの購読料は登録料に含む）

HANDBALL

MIKASA®

http://www.mikasasports.co.jp

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール

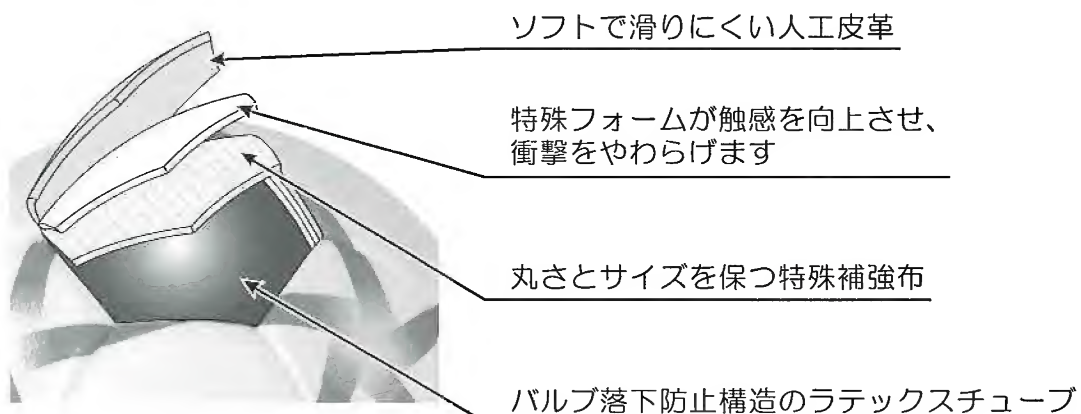
HP300

検定球3号、人工皮革
男子(一般･大学･高校)
カラー：イエロー

HP200

検定球２号、人工皮革
女子(一般･大学･高校)・中学校
カラー：イエロー

数々のテクノロジーがプレイをサポートします



株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第四五四号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
平成十六年九月二十六日印刷
平成十六年十月一日発行
東京都渋谷区神南一ー一ー一
電話 代表 三四八一ー二三六一
振替 〇〇一二〇ー七ー一〇二九三
編集兼発行人 大西武三
定価 年間三三〇〇円